

村田安男



## 高崎・玉村スマートIC周辺開発計画の見通しは

町長 「スマートIC周辺地区まちづくり協議会」を通して、土地利用を検討していく

建設中のスマートIC周辺地域



**質問** 「高崎・玉村スマートIC（仮称）」周辺開発は、将来の玉村町の活性化につながる事業である。進捗状況はどうなっているか。

**答弁** 町長 スマートICの工事は、来年度の完成を目指し、順調に進んでいる。8月に「玉村町スマートIC周辺地区まちづくり協議会」が発足し、土地利用の方向性について協議を重ねている。

**質問** 「道の駅」や「農産物直売所」設置の進捗状況は。

**答弁** 町長 「道の駅」については、平成27年4月オープンを目標にしている。11月29日に道の駅建設委員会が発足した。地元の産業関係者の意見を聞きながら、皆さんに愛される道の駅を目指している。

**質問** 東毛広域幹線道路北側の32ヘクタールの開発構想は。

**答弁** 町長 スマートIC周辺地区まちづくり協議会での協議と同時に、スマートIC周辺土地利用構想策定業務をコンサルタント会社に委託しており、工業団地、商業集積、6次産業などの開発計画が提案されている。今年度中に、方針がまとまる予定である。

**質問** スマートIC及び東毛広域幹線道路の開通により、接続道路の渋滞が懸念されるが。

**答弁** 町長 交通量の増大による渋滞等に対しては、新たな道路整備も視野に入れていきたい。

## 同報系防災行政無線は必要か

町長 問題点を踏まえたうえで、導入を検討していく

斉藤嘉和



**質問** 町では、平成23年までに移動系による防災無線の整備を行った。同報系による固定されたスピーカーを町内全域に整備することについて、近くでは騒音の苦情、離れた地域では情報が聞き取れないなどの問題点が見えてくる。同報系防災無線に対する必要性をどう考えるか。

**答弁** 町長 町が受信した情報をいち早く正確に住民に伝達する必要があるため、情報を提供する仕組みの一つとして、同報系防災行政無線の必要性を認識している。今後、同報系の整備については、指摘された問題も踏まえ、引き続き検討したい。

**質問** 町で開始した情報伝達手段「メルたま」の状況は。

**答弁** 町長 生活環境安全課長 現在、1600人の登録がある。今後も「メルたま」のPRを進め、Jアラートと「メルたま」の接続を優先していく。

**質問** 携帯電話会社と連携した事前登録不要の緊急速報メールについての取り組みは。

**答弁** 町長 生活環境安全課長 現在は対応していない。今後考えたい。

**質問** 情報提供の手段は種々ある。同報系の整備が全てではない。同報系防災無線の整備にはどのくらいの事業費を見込むか。

**答弁** 町長 生活環境安全課長 3億円見込んでいる。



防災行政無線移動系指令台（生活環境安全課に設置）

## 町の課題（未利用財産等）を問う

町長 よく研究・検討し、進めていく



原 幹 雄

**質問** 町の未利用財産（土地）の状況を問う。

**答弁** 町長 未利用地で、まとまった土地は2カ所あり、将来的な利用方法を検討している。資産価値は、仮算定すると2カ所で2000万円程度になると考えている。その他、使用されていないごみ置き場等、小規模な余剰的な土地もあるが、単独利用は難しい土地である。いずれにしても、公有財産の効率的かつ効果的な活用を図るという観点から、売り払い処分を含め、有効な用途を検討していく。

**質問** 農業振興策、特に小規模農家への支援策を問う。また、販売面、特に地産地消・ブランド化・6次産業化への支援策は。

**答弁** 町長 小規模農家への支援策として、農業公社を通じて機械の貸し出しや除草、畔塗り作業などの支援を行っている。販売面では、「道の駅」の建設を進めており、ブランド化や6次産業化、販売力の強化に必ず資すると考えている。

**質問** 行政評価制度導入に向けた準備状況は。

**答弁** 町長 先進地視察や研修、情報収集等、本制度導入に向けた調査・研究を進めている状況である。

行政評価は、さまざまな場面で有効な活用ができると認識しており、今後、庁内横断的な担当者からなる「行政評価推進事務局」を設置し、導入に向けた具体的な検討を進めていくつもりである。

大豆の播種



## 多機能、包括的な町民支援施設の建設を提案する

町長 利用者の利便性を高める複合的施設を長期的に検討したい



柳 沢 浩 一

**質問** 団塊の世代がいよいよ退職し、多くの方が社会への参加・自己啓発を望んでいるが、受け入れが十分ではない。その実態を認識しているか。

**答弁** 町長 住民活動サポートセンター「ぱる」や勤労者センター、文化センターを拠点に、多数の団体が活動している。

**質問** しかし、「ぱる」は斎場跡地であり、使い勝手が悪く、敬遠する人も多い。しかも勤労者センターは築35年経過しており、耐震性や老朽化も心配だ。

**答弁** 町長 最近、外壁塗装や雨漏り対策などの工事を行った。今後も、より一層利用していただきたい。

**質問** 当然、耐震診断は実施したのではないかと思うが、結果は。

**答弁** 町長 診断はしていない。今後、安全への配慮をしていく。

**質問** 役場庁舎東の土地は、J Aとの間で中央公民館があつた土地と等価交換したものである。中央公民館跡地は正方形に近く使いやすい敷地であり、町が取得した土地をしっかりと活用しなければ、意義が失われるが。

**答弁** 町長 J Aの今後の支店統合などの方向性をにらみ、多機能な施設建設も検討していく。



住民活動サポートセンター「ぱる」